

手作りギター

ひのき舞台に



自作のギターに囲まれる広川さん（左）と、広川さんのギターを使ってコンサートを開く青木さん

松山の広川さん 音にこだわり2年で18本製作

松山市住吉二丁目、NTT勤務広川憲二さん
金毛はギターの趣味が高じて、自宅で手作りギタ
ーに取り組み毎日。これまで仕上げたギターは十
八本。いずれも、本格的な音色で、プロのギタリ
ストもぞっこん。年末には広川さんのギターを使
った特別コンサートが計画されている。

ほれ込んだプロが 12月に演奏会開催

広川さんがギターを最初
ら自分で製作に取り組み
に手にしたのは松山北高三
年の時。近所に大学のマン
ドリン部に所属する学生が
いて手ほどきを受けた。

その後、社会人となって
もギター仲間とサークルを
作るなどして演奏を楽しん
できた。やがて、ギターの
深い魅力を知るにつけ、通
常のギターでは満足できな
くなり、市販のものや特別
注文したギターを自分流に
あれこれ改造してみた。だ
が、失敗の連続。思い切っ
てドイツの名産「ハワザー」
を購入したりした。

もともと木工が好きだっ
た広川さん。「高いお金を
出さずとも、いい音色のギ
ターを手にする」とは出来
ないものか」と、二年前か

らは自分で製作に取り組み
ようになった。

ギター作りには、共鳴胴、
棹（さお）、糸藏など各パ
ーツを合わせれば三百もの
工程があり、それをとって
も気の抜けない作業。広川
さんは材質や形を徹底的に
調べ上げ、これまでの試行
錯誤の経験を生かしながら
製作を続けている。

でき上がったギターは希
望者に材料費程度で譲る
などして喜ばれてきた。そ
のうちの一本がギタリスト
の青木一男さん（宮川同市
天山町）の目に留まった。
青木さんは、切れのいい
音色に引き込まれるよう
に、一カ月ほど自分のスタ
ジオで弾き続けた。そし
て「いても立ってもおられ

ず、演奏会を思い立った」という。演奏会は十二月二十三日午後二時から、松山市民会館小ホールで、バッハや現代音楽などを取り交ぜ十数曲を披露。青木さんと広川さんのトークなどもある。入場料二千円。問い合わせは青木さんへ電話089（933）6052。